

みどり 《適塾》

大阪大学のルーツとしての「適塾」文化と「みどり」テクノロジーの融合

第2回 デザイン思考勉強会 (12/5)

カルタヘナ法をどのように乗り越えることが可能か？
遺伝子組み換え体が持つ様々な「社会的な誤解」と

生物を起点とした『みどり』テクノロジーによるオープン・イノベーションを実現する



「植物などの生物由来の科学的知識を、社会の問題解決に実装するために具体化する方法」

みどり《適塾》では、ホタルよりも100倍以上明るく光る化学発光タンパク質をはじめとした植物活用テクノロジーの実践を共に考える議論を2016年9月16日にスタートしました。

第2回目となる今回のデザイン思考では、前回のアイデアをベースに、新たな参加者とアイデアを迎え、遺伝子組み換え体である「光る植物」に立ちはだかる、遺伝子組み換え体が持つ様々な「社会的な誤解」やカルタヘナ法をどのようにクリアできるのか？という課題解決を考える議論を行います。

社会の様々な方々(企業やみどりテクノロジーに興味を持たれる方々)・自治体との連携によるオープン・イノベーションを実現するため、このような趣旨にご賛同をいただける皆様のご参加と、協働ができることを心よりご期待申し上げます。

日時：2016年12月5日(月) 13:10～
場所：大阪大学中之島センター 講義室 405 (〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島4丁目3-53)
参加費：3,000円
(「企業および大学関係者ではない一般市民の方」および「学生」は500円)

13:10～13:30 概要説明：前回のサマリーならびに今回の狙い
永井 健治 塾頭(大阪大学 産業科学研究所 教授)
13:30～14:30 話題提供「カルタヘナ法について：遺伝子組み換え体の社会普及が抱える課題(仮)」
話題提供者：小泉 望(大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 教授)
14:30～14:50 話題提供に対する質疑応答
14:50～15:00 休憩
15:00～15:45 FGD(Focus Group Discussion) [グループ編成→ディスカッション]
「第1回目に導き出されたアイデア(シーズ)を実現するため、
どのようにカルタヘナ法に関わる問題を切り抜けるか？」
(一般の人々による誤解をどのように乗り越えることが可能か?)
15:45～16:15 各グループによる発表、相互による提示された課題解決法の講評
16:15～16:45 各グループから導き出された課題解決法の共通項を見出す共同検討作業
16:45～17:00 第3回目に向けた宿題提示、課題整理
17:00～ 付近のエリアで交流会

<主催> みどり《適塾》会 (<http://www.sanken.osaka-u.ac.jp/RAIS/business/b2/b2-2/midori.html>)

<協力> 大阪大学産業科学研究所・(一財)大阪大学産業科学研究協会・(一社)テラプロジェクト

申し込み先：みどり《適塾》会事務局 加藤久明(大阪大学産業科学研究所 産学連携室 特任助教)

(E-mail: hisaaki@sanken.osaka-u.ac.jp FAX: 06-6879-8448)